



信金中央金庫
SHINKIN CENTRAL BANK

地域・中小企業研究所

ニュース&トピックス No. 2020-74
(2021. 1. 20)

〒103-0028 東京都中央区八重洲1-3-7 TEL. 03-5202-7671 FAX. 03-3278-7048
URL <http://www.scbri.jp> e-mail : s1000790@facetoface.ne.jp

幡多信用金庫におけるシステム構築態勢の整備 および投資計画の策定について

四国支店 皆上 直人

ポイント

- ▶ 幡多信用金庫¹(以下「当金庫」という。)は、経営基盤の強化に向けて、経営陣主導のもと、業務システムの見直しを進めている。
- ▶ 業務システムの見直しにおいては、関連各部の連携が重要となることから、ユーザー部門が中心となってシステム構築態勢の整備を行うとともに、現行の業務内容や業務フローについても、システム企画書の共通フォーマットを作成のうえ、併せて見直すこととした。
- ▶ 新規システムの構築に必要な費用については、当金庫の今後の収益計画を踏まえる必要があるため、収益・費用シミュレーションを実施のうえ、システム投資計画を策定した。
- ▶ 新規システムの導入に加え、業務システムのシステム基盤を共通化することで、運用負荷の軽減および費用削減を見込んでいる。

1. 経緯

当金庫では、中期経営計画における貸出金残高目標を昨年度前倒しで達成するなど、本業は堅調に推移している。そのため、次期中期経営計画(2021~23年度)においては、さらなる経営基盤の強化に向けて、業務効率化にも積極的に取り組む方針であり、業務システムの見直しはその一環として行うこととなった。

最近の金融業界においては、厳しい収益環境や人材採用難もあり、業務効率化を図る機運が高まっており、業務の抜本的な見直しのほか、各種システムの積極的な活用が急速に進んでいる。しかしながら、構想や計画が曖昧なままシステム投資を進めた場合、コストの割には十分な効果を得られないばかりか、システムベンダーからは都合の良い顧客とみられるおそれもある。

こうしたシステム投資の難しさを踏まえ、当金庫では経営陣主導のもと、システム構築態勢の整備等に取り組んでいる。

2. 取組み概要

(1) システム構築態勢の整備

当金庫のシステム企画・開発・運用については、事務部が日々の事務作業と並行しながら対応している。しかしながら、業務効率化を見据えた中長期的なシステムの見直しの場合、各部が抱える業務課題やシステム投資費用の当金

庫決算への影響等を把握する必要があり、事務部単独での対応は難しい状況にあった。

そこで、当金庫全体の経営戦略を立案する総合企画部が中心となり、業務システムの企画・開発については、業務に精通するユーザー部門主導で進める方針に改めた。また、各部が抱える業務課題について、システムの企画段階で効果的に検討を行うため、システム企画書の共通フォーマットを作成のうえ、現行の業務内容や業務フローを「見える化」することでムリ・ムダ・ムラを排除するなど、抜本的に見直すこととした。

(2) システム化構想の策定

システム化構想については、現行システムの構成や機能等を整理のうえ、関連各部の役職員が協議しながら検討を進めた。当金庫では、紙ベースの書類管理や顧客情報の一元管理、窓口セールスの時間捻出が課題となっていたことから、ペーパーレス化にかかるシステムおよび効率的な渉外・窓口営業を可能とするシステムについて、対応を行うこととした。また、システム運用面についても、システム毎に構築しているサーバーやPCの管理が煩雑になっていたことから、システム基盤を共通化することとした。具体的には、システム毎にある物理的なサーバーを仮想化²するとともに、OSやアプリの

¹ 2020年3月末の当金庫の概要は以下のとおり
本店所在地：高知県四万十市、預金量：1,493億円、貸出金量：806億円、店舗数：14店舗、役職員数：170人

² 複数のサーバー機能を物理的なサーバーに集約する技術。主なメリットは、①物理的なサーバーの台数が減り、設置スペースや消費電力を節減、②サーバーの追加時には機能追加で済み、物理的なサーバーと比較して容易かつ安価、③バックアップ拠点にサーバーの情報をコピーしておくことで、被災時には短時間で復旧が可能(BCP対策)

